

逆思考の読みで「きつねの窓」の構造を読み取る



投稿者の先生：高本 英樹

▶小学校 ▶6年 ▶国語 ▶物語

URL: <https://foresta.education/estanet/essence/detail/15921>

説明

学校図書 6年生 「きつねの窓」の授業をしました。
物語を後ろから読んでいくと、物語の構造が見てきます。
「なぜ、○○だったのだろう」という問いを投げかけ、子ども達に考えさせます。
解が出ると、今度はその解に対して、「では、なぜ▲▲だったのだろう。」と続けます。
こうやって、文章の終わりから問いの連続によって前へ前へと読み解いていくのです。

この逆思考の読みを使うと、「なぜ、きつねがファンタジーの世界を作る必要があったのか」や「なぜ、主人公はひとりでぼんやり、昔好きだった女の子のことなんかをとりとめもなく考えながら歩いていたのか」が分かります。
子ども達からは、「おお～、そうかあ!」という感嘆の声が聞かれます。
きつねは、自分の大事なもの(母ぎつね)を奪った鉄砲を奪うために、ファンタジーの世界を作り、主人公に本当の大切な物に気づかせたのです。
主人公は、冒頭では昔の思い出を「とりとめもなく」考えていた程度でしたが、最後は、意識的に窓を作って見るほどに大切にしています。
ここに主人公の大きな変容がみられます。
この変容に着目させれば、この物語の主題も見えてきます。

こうやって全体の構造をつかむことで、物語の伏線を読み、その書きぶりのすばらしさに気づくことができます。
子どもに物語のおもしろさが十分伝わる作品です。

逆思考の読みについては、元 筑波大学附属小学校 白石範孝氏の提唱される実践を取り入れました。
今回は、それを基に、私が授業化しました。
私の発問は、資料にまとめております。授業をする際には、図1・2とを合わせてご活用ください。

添付ファイル

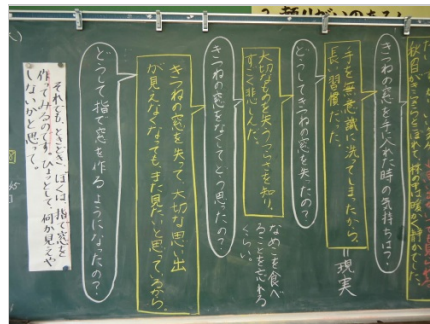
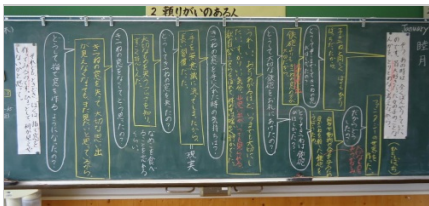


図 1

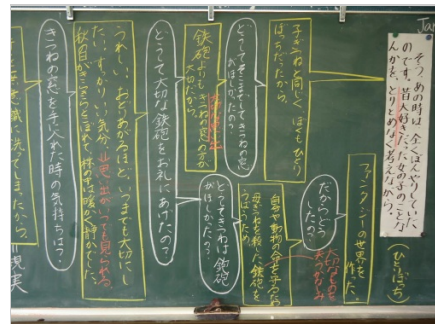


図 2

「それでも、ときどき、ぼくは、指で窓を作ってみるのです。ひょっとして、何か見えやしないかと思って。」

どうして指で窓を作るようになったの？

I

きつねの窓を失ってどう思ったの？

I

どうしてきつねの窓を失ったの？

I

きつねの窓を手に入れたときの気持ちは？

I

どうして大層な練習をきつねにあげたの？

I

どうしてそこまできつねの窓がほしかったの？

I

一人ぼっちのきつね

↓

どうしてきつねは練習がほしかったの？

I

だからどうしたの？

☐ ファンタジーの世界を作った。

「そう、あのときは、全くぼんやりしていたのです。僕大好きだった女の子なんかのことを、とりとめなく考えながら。」

作成：高本英樹

- 1 -

資料（本時の発問）